

巻 頭 言

2020年度、この「学習開発学研究」の発行母体であった「学習開発学講座」を取り巻く環境に大きな変化が生じた。広島大学の大学院が改組され、「教育学研究科」を含めた6研究科が再編され、「人間社会科学研究科」が立ち上がった。その中で「講座」という組織は無くなった。

さらに、旧「学習開発学講座」を長きにわたり支えてこられた、樋口聡教授と井上弥教授が、年度末に定年退職を迎えられることになった。これもまた大きな変化である。

一方、全世界に目を向けると、この2020年度に新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックが生じた。日本では2020年3月から約3か月間、多くの小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等において一斉臨時休業となった。その中でオンライン授業を始めた学校もあった。これを機に、ICT化がなかなか進まなかった日本の教育現場は、待ったなしの改革を迫られている。2019年に打ち出されていたGIGAスクール構想の実現が急ピッチで進んでいる。

教育のICT化に伴い、教育現場はこれから様々な課題に直面することであろう。これらの課題への対応に当たって、これまで「学習開発学研究」に掲載された、教育学や心理学の理論をベースにした様々な学習場面での問題の解決を試みる研究が、多くのヒントを与えることを期待したい。また、今後、教育のICT化の中で生じる諸課題を解決する研究が、「学習開発学研究」に多く掲載されることも期待したい。

「学習開発学」の研究はこれからも教育現場の種々の問題解決に重要な役割を担うことになるだろう。旧「学習開発学講座」は無くなったが、新しい研究科の中で「学習開発学」のさらなる発展に貢献することが、旧「学習開発学講座」に携わった我々の使命となるであろう。

「学習開発学研究」第13号

編集委員長 児玉真樹子